GM 鶴牧-3 環の会

第 45 回クラシックを楽しむ会

2017 年 7 月 30 日（日）18:00～（2 時間 7 分、休憩除く）

タイトル：**歌劇「アンドレア・シェニエ」（ジョルダーノ）**

会場等　：ミラノ・スカラ座
　　1985 年 7 月 9 日
楽団等　：ミラノ・スカラ座管弦楽団、同合唱団
指揮　　：リッカルド・シャイー
演出　　：ランベルト・プッジェリ
出演　　：ホセ・カレーラス（シェニエ）
　　エヴァ・マルトン（マッダレーナ）
　　ピエロ・カプッチッリ（ジェラール）
　　他

終幕のマッダレーナとシェニエ、共に永遠の愛を！　そして断頭台へ

あらすじ

フランス革命前夜から革命後の恐怖政治の時代、実在した詩人シェニエと伯爵令嬢マッダレーナの出会いから、二人の激しい恋と断頭台の露と消えた悲劇的な結末までを、美しくダイナミックな音楽で描いた傑作ヴェリズモ・オペラ。

見どころ聴きどころ

第 1 幕シェニエのアリア「**ある日、青空を眺めて**」、第 3 幕マッダレーナのアリア「**亡くなった母を**」、第 3 幕シェニエのアリア「**私は兵士だった**」、第 4 幕シェニエのアリア「**五月の晴れた日のように**」、そして第 4 幕マッダレーナとシェニエの二重唱「**貴女のそばでは、僕の悩める魂も**」

第 45 回クラシックを楽しむ会（予告）

タイトル：**歌劇「トゥーランドット」（プッチーニ）**

8 月 20 日（日） 17 時 30 分開場、18 時上映開始

ブレゲンツ音楽祭 2015。オーストリア西端の町、ボーデン湖上に仮設された巨大な舞台と湖水を使った劇的な演出をお楽しみに。兵馬俑のレプリカが多数沈められていたり、登場人物が舟で登場したり・・・

9 月以降「ワルキューレ」「チャルダッシュの女王」など予定。

あらすじ

【時と場所】

フランス革命時代。1789 年パリ郊外（第 1 幕）、1794 年パリ（第 2、3、4 幕）

【主要人物】

アンドレア・シェニエ (T)　　詩人

マッダレーナ・コワニー (S)　コワニー伯爵令嬢

カルロ・ジェラール(Br)　　コワニー伯爵家の従僕。令嬢のマッダレーナをひそかに愛している

【第 1 幕】パリ郊外にあるコワニー伯爵家の一室。1789 年の冬フランス革命前夜

伯爵夫人の指図で夜会の準備が行われている。従僕の一人ジェラールは民衆の苦しみを顧みず快楽に明け暮れる貴族社会を憎悪して暴言を吐く。革命前夜の不穏なうわさが伝わる中、夜会が始まる。詩人のアンドレア・シェニエも夜会に招かれている。のどかな牧歌劇の後、伯爵令嬢マッダレーナがからかい半分にシェニエに即興詩の朗読を所望する。シェニエはここでアリア**「ある日青空を眺めて」**を歌い、愛の崇高さを語る。マッダレーナは感銘を受けて非礼を詫びるが、シェニエは黙って立ち去る。ダンスが始まると、ジェラールが貧しい人たちを連れて現れ、貴族を批判した後、従僕の制服を脱ぎ捨てて出ていく。伯爵夫人らはショックを受けるが、ガヴォットが流れ何事もなかったように再びダンスが始まる。

【第 2 幕】セーヌ河畔にあるカフェ・オットーの前。1794 年 6 月恐怖政治下のパリ

5 年後、革命で没落し母を失ったマッダレーナは、娼婦に身を落とした侍女にかくまわれ養われている。シェニエもまた革命政府から追われる身である。シェニエが現れ、すぐパリを離れろと忠告する友人から通行許可証をもらう。しかしシェニエは匿名の女性と会う約束でパリを離れられない。

夜になりマッダレーナがシェニエに会いにやってくる。マッダレーナはシェニエに愛を告白し、シェニエも死ぬまであなたを守りましょうと応える。シェニエを見張っていた密偵が革命政府の高官になっているジェラールを呼んでくる。ジェラールはマッダレーナを連行しようとするが、シェニエは彼女を逃がす。残った二人は決闘となる。傷付いたジェラールは、マッダレーナを守るよう頼んでシェニエを逃がす。ジェラールもまたマッダレーナを愛していたのである。

【第 3 幕】革命裁判所の大広間

ジェラールが民衆を前に演説し革命政府のための寄付を募っている。そこにシェニエが見つかったという知らせが届き、ジェラールはシェニエを告発する文書を前に思い悩んでアリア**「祖国の敵」**を歌うが結局は告発書に署名してしまう。マッダレーナがシェニエの命乞いに現れると、ジェラールは彼女に愛を告白する。マッダレーナは、シェニエを救ってくれるならと、有名なアリア**「亡くなった母が」**を歌う。心を打たれたジェラールはシェニエを救う決心をする。

革命裁判が行われ、民衆は次々に死刑を宣告している。シェニエの番になり、シェニエはアリア**「私は兵士でした」**と祖国への愛を歌い、ジェラールも彼の弁護をするが、結局は死刑を宣告されてしまう。

【第 4 幕】サン・ラザールの監獄

シェニエは面会に来た友人に、辞世の美しいアリア**「5 月の晴れた日のように」**を歌う。ジェラールがマッダレーナを連れて現れる。マッダレーナはシェニエとともに死にたいと願い、ある女囚の身代わりになるため看守を買収する。ジェラールはロベスピエールに二人の助命を願おうとその場を走り去る。シェニエは一緒に死にたいというマッダレーナの言葉に感激し、二重唱**「僕の悩める魂も」**で愛の為に死ぬ喜びを歌う。そして二人は断頭台へと消えていく。

アンドレ・シェニエ(1762-1794)

アンドレ・シェニエ

歌劇「アンドレア・シェニエ」のモデルはフランス革命で処刑された実在の詩人アンドレ・シェニエである。政治的には穏健派のフイヤン派に属して積極的に発言していた。恐怖政治が進む中で、フイヤン派は勢力を失った。1792 年の秋シェニエは逮捕の危険を感じて逃亡、潜伏、沈黙を余儀なくされた。1794 年 3 月に逮捕され、サン・ラザールの監獄*に入れられたが、シテ島の革命裁判所に隣接したコンシェルジュリーの監獄に移され、1794 年 7 月ギロチンで処刑された。ロベスピエールが処刑されて恐怖政治が終焉するわずか 3 日前である。

* サン・ラザールの監獄はパリ 10 区東駅近くにあった。革命前ボーマルシェもこの監獄に数日間収容された。当時大評判の「フィガロの結婚」を観劇したルイ 16 世が激怒、上演禁止にした時の事である。コンシェルジュリーの監獄には処刑前のマリー・アントワネットも入れられていた。

ジャン＝ランベール・タリアン(1762- 1820)

ジェラールのモデル。フランスの革命指導者で政治家。恋人を救うためにロベスピエール逮捕時のクーデターで活躍したことで知られている。

ウンベルト・ジョルダーノ（1867 - 1948）

ジョルダーノ

南イタリア、アドリア海側のフォッジャに生まれた。家族の反対を押し切って 13 歳でナポリ音楽院に入学し、苦学して作曲を学ぶ。選抜試験のために作曲したオペラを、楽譜出版社ソンゾーニョ社に応募したが落選（このときマスカーニの「カヴァレリア・ルスチカーナ」が 1 位）。ソンゾーニョ社と契約していた貴族出身の作曲家の知遇を受け、自身が依頼されていた台本の作曲権をジョルダーノに無償譲渡した。この台本は後にプッチーニの数々の名作オペラを手がけたルイージ・イッリカの「アンドレ・シェニエ」。1896 年初演。作曲家として初めての大成功をおさめる。現在に至るまで彼の代表作である。

台本「アンドレ・シェニエ」について

原作作品はない。台本作家ルイージ・イッリカが、ジュール・バルビエ『アンドレ・シェニエ』、ポール・ディモフ『アンドレ・シェニエの生涯と作品』などを参考に、実在のシェニエが綴った詩をもとにアリアの歌詞を書くなど、シェニエの詩歌作品も丹念に研究したうえで台本を執筆している。一方、実在のシェニエが残したコワニーという美女について綴った詩から自由にイメージを膨らませて、シェニエの恋人マッダレーナ・ディ・コワニーのキャラクターを創造、またシェニエに対抗する立場の役として架空の人物カルロ・ジェラールを設定するなど、物語に歌劇的な興趣を盛り込むべく、フィクションもふんだんに取り入れた。（ウィキペディアより引用）

フランス革命勃発から恐怖政治へ

革命の背景　いきなりフランス革命が起きたのではない。大地主の聖職者と特権階級の貴族階級は免税特権、裕福なブルジョワジーは税金逃れのなか、国民の大多数を占める下層階級の農民、労働者は重税の重荷で貧窮にあえぎ全国で暴動が発生していた。

革命の発端　破たんした国家の財政を立て直すため、ルイ 16 世は聖職者や貴族にも課税しようとして三部会を開催(1789 年 5 月)したが財政問題以前の議決形式で紛糾、第三身分の平民は業を煮やして「人民」のための国民議会を発足させた。これがフランス革命勃発の直接の原因である。

革命勃発　「大恐慌」のなか、怒った民衆が旧体制支配の象徴バスティーユ牢獄を襲撃(1789 年 7 月 14 日)して占拠した。これが革命勃発とされる（実際には解放された囚人は 7 名で政治犯はいなかった！）。ルイ 16 世は立憲議会を受け入れ、封建的特権廃止を決議。ラファイエット侯爵の「フランス人権宣言」を採択。

国王一家ヴェルサイユ宮殿から連行　パリの主婦らが国王と議会に窮乏を訴えるためヴェルサイユ宮殿に向かって行進を開始。ルイ 16 世一家を拘束しパリに連行(1789 年 10 月)、テュイルリー宮殿に幽閉。議会の機能もパリに移し、教会財産国有化も宣言した。

各種改革・民主化　1790 年は、革命一周年記念式典（日本では「パリ祭」)。三色旗をフランスの国旗に制定。各種の改革・民主化を進めた年。

国王一家逃亡未遂事件　王権が次々にはく奪されるなか、ルイ 16 世一家が変装してパリを脱出しヴァレンヌで逮捕(1791 年 6 月)され王の権威は失墜。この年、財務官僚と結託して重税を取り立ててた徴税請負制度を廃止。

反革命包囲網画策　王妃マリー・アントワネットの兄、神聖ローマ皇帝レオポルト 2 世は妹たちの運命を憂い、反革命包囲網を画策してピルニッツ宣言(1791 年 8 月)を出した。

革命派に火をつける　反革命のピルニッツ宣言は革命派を脅迫するもので、亡命貴族らを元気づけ、ブルジョア市民の民兵組織サン・キュロットたちを過激な活動へと駆り立て、ジロンド派などから主戦派と称するグループが台頭した。

1791 年憲法の制定　国王が新憲法に宣誓、立憲君主制への移行始まる。立法議会を招集し、帰国しない亡命貴族を死罪とする亡命者処罰法を制定。ジャコバン・クラブを脱退した右派連合による立憲君主派（フイヤン派）内閣が成立。その結果、ジャコバン・クラブから立憲君主派が脱退し、残ったのは穏健共和派と急進的共和派となった。

対オーストリア宣戦布告　オーストリアなど対仏大同盟軍による反革命干渉戦争が迫る中、ジロンド県ボルドーのブルジョワジー出身者が主導するジロンド派内閣が成立してオーストリアに宣戦布告(1792 年 4 月)、フランス革命戦争を開始したが、旧体制国王軍が主体。貴族士官の裏切り・陰謀・疑惑が続きランス軍*は混乱を極め緒戦で敗走。パリに衝撃が走った。

テュイルリー宮殿襲撃、王権停止　フランス軍劣勢の原因を国王夫妻の内通と考えた民衆と軍隊がテュイルリー宮殿を襲撃(1792 年 8 月)してルイ 16 世やマリー・アントワネットら国王一家を捕らえて幽閉した。王権が停止されブルボン王政と自由主義ブルジョワジーの政治も終焉した。

ルイ 16 世処刑と恐怖政治への道　対外戦争と内戦で共和国は最大の苦境になる中でルイ 16 世を処刑(1793 年 1 月)し、革命裁判所を設置し、反革命派取締のための監視委員会を設置(1793 年 3 月)した。この頃ジャコバン派では、ジロンド派と山岳派が決裂し、マラーやロベスピエールはジロンド派を裏切り者として攻撃、人民を扇動して政敵を次々に逮捕、革命裁判所で死刑判決を下していった。

ロベスピエール*の独裁と恐怖政治の終焉　ロベスピエールの独裁政府は恐怖政治法を制定(1794 年 6 月)して刑罰を死刑のみにしたが、翌月(1794 年 7 月)クーデターにより逮捕・処刑されて恐怖政治が終わった。

*ロベスピエールは三部会開催時に 30 歳で第三身分の議員。その当時フランス北部の地方で弁護士を開業し、一時は司教区裁判所の判事も務め、地元のアカデミー会長に選出されるなど人望を集めていた。